



ほり ぐち じゅん や
堀 口 順 也

こうめいとう きいんだん
公明党議員団

学校給食を津産津消で安全な完全米飯給食に

問 現在、我が国の小麦粉の自給率は12%で、ほとんどが輸入。保存、輸送のために収穫後の小麦に直接まくポストハーベスト農薬が使用され、学校給食用の小麦粉は農薬がかかった外皮に近い部分が使われるため最も危険。パンは加工食品で食品添加物の心配があり、油脂類の過剰摂取により脂肪過多になりやすい。子どもたちの健康と学力向上に地産地消の安全な米を。

答 現在、学校給食については、津市産米を使用した米飯給食を週3回から4回、原料に三重県産の小麦を30%、外国産を70%、いずれも一等粉を使用したパン給食を週2回程度実施している。米飯給食は、栄養バランスも優れ、満腹感が得やすく過食を防ぐなど、主食としては望ましいものであると考える。また、パン給食は、子どもたちの多様な食生活に対応するとともに、自分でパンに副食をはさんで食べるなど、作って食べる楽しみを持つ献立もでき、食を促す効果もあり、こういう割合で実施している。学校給食を考える上では、栄養バランスと安全・安心が大事であると考えており、今後も栄養面と給食を残さず食べるという両側面から献立作成に取り組んでいく。

●その他の質疑・質問●

- コミュニケーションのバリアフリーについて
- 津市地域公共交通網形成計画について
- デマンド型交通の導入支援について
- 全国学校給食甲子園に参加して食育推進を
- 里親委託の取り組みは
- ひとり親世帯へのサポートは
- 職員行動規範について など



▲点字や手話に次ぐコミュニケーション支援ボードの設置を



た なか かつ ひろ
田 中 勝 博

いっ しん かい
一 津 会

乳児院、児童養護施設における運営と課題は

問 子ども、子育てをめぐる社会環境が大きく変化する中で、全ての子どもに良質な成育環境を保障する社会の実現が求められている。県は家庭的養護推進計画を策定し、施設、グループホーム、里親・ファミリーホームにおける要保護児童の割合を約3分の1ずつに変えていくことを目標に設定しているが、課題はないか。また、職員の配置基準は適正か。

答 国の家庭的養護を優先していくという方針を踏まえ、県においても家庭的養護推進計画を策定し、里親登録者の確保やファミリーホームの設置促進を重点課題としている。本市においては県が実施する里親説明会を支援するなど計画の推進に向けた取り組みを行う。また、施設入所児童を里親委託に振り替えていく中で、受託した里親が悩みを抱え込んで孤立することがないように、県や児童相談所、各施設とも連携した里親の新規確保や支援の充実が課題となる。職員配置基準については、施設で直接養育・支援に当たる職員の配置基準が、現在の2歳未満児1.6人につき1人から、1.3人につき1人に緩和されるなど、手厚い配置と支援が可能となることから適正と考える。

●その他の質疑・質問●

- 市長が描く津市の将来ビジョンの実現に向けた思いは
- 教育施設整備についての基本計画と学力、体力の向上は
- 幼児期の教育・保育の充足量と区域の設定、利用者ニーズは
- 津市出身のトップアスリートに続く選手の強化・育成は
- スポーツ庁に期待する事案は
- 津市シルバー人材センターの業務の雇用契約は など



▲乳児院と児童養護施設を併設した津市たるみ児童福祉会館